

# 西中学校区

<p>実施事項 (すべて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育支援教員の配置による中学校教員の小学校派遣・乗り入れ授業交流 (2小学校へ、原則各校週1回)</li> <li>・小中連絡会</li> <li>・小学校教員による中学校授業参観・情報交換(中1)</li> <li>・中学校教員による小学校授業参観・情報交換(小6)</li> <li>・合唱の交流(中学生が小学校を訪問)</li> <li>・小学生陸上指導・合同練習(西中陸上部が小学生を指導)</li> <li>・合同あいさつ運動(中学生が小学校で実施)</li> <li>・小中合同引き取り訓練の実施(兄弟のいる小学生を中学生が引取り下校)</li> <li>・小中一貫連絡協議会(年3回)</li> </ul>
<p>カリキュラム作り に 取り組んだ 教科・領域 等 (算数・数学)</p>	<p>【成果】 小学校、中学校共につまずきやすい数と式の分数の分野で、小中学校間の教え方の共通点や違いについて整理することができた。</p> <p>【課題】 教科書の内容、指導要領に学習内容が示されており、小中間の算数・数学の内容相関表等もある中で、独自に教科の小中一貫カリキュラムを作成することは難しい。 「カリキュラム作り」ではなく、教科の分野や内容について、重点化するところを小中学校で共有して、合同教科会を行って検討していく程度が妥当だが、それについても、打ち合わせ時間をどう確保するのか、小中間で調整することには大きな困難がある。</p>
<p>乗り入れ 授業の教科・領域 (算数・数学)</p>	<p>【成果】 ・小中の教科の連結を確認し、連結を意識した乗り入れ授業を実施した。 ・小6の児童が、中学校の教員とふれ合い、関わりの中で中学校について知る機会になった。</p> <p>【課題】 ・小中学校の教員がともに多忙な中で、事前に十分な打ち合わせをして、計画的に授業を進めたり、支援の入り方を確認したりする打合せ時間を確保することが難しい。 ・小学校においては、日常の教科学習の実施、行事等に関わる活動時間の設定等、時間割調整が必要な中で、週1日乗り入れ授業・共同授業の実施時間を確保し、単元の進捗等も考慮して効果的なものにするのが非常に難しい。 ・中学校においても、日常の行事やさまざまな活動等がある中で、コンスタントに毎週同じ曜日に訪問し続けることが難しい(もちろん他の曜日を挟むことは原則不可能)。その結果、訪問日が空いてしまい、学習内容への継続的なアプローチが困難になってしまう。</p>
<p>令和4年度 の 取組について</p>	<p>コロナ禍の影響は少なからずあるが、コロナ禍が起こる前に行っていた内容に戻しつつ実施した。</p> <p>【成果】 ・中学生を小学校に派遣して、陸上指導や吹奏楽の演奏、あいさつ運動などを行うことで、中学校、中学生のイメージやより良い将来像について伝えることができた。 ・合同引き渡し訓練など、今後に向けて、より実地的な検討を進めることができた。</p> <p>【課題】 ・連携行事について、上記の効果はあるが、小・中ともに、管理職サイドでの意義の理解と、実際に推進する先生方の感じ方にギャップが生じやすい。 ・小中連携・一貫の目的をより明確化し内容の見直しを進めることが必要だと思う。</p>
<p>令和5年度 に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、小中一貫連絡協議会を中心に、より良い方向を模索しながら進めていく。</li> <li>・可能な限り、小中学校の先生方が直接、接する機会を作り、相互理解を図ることができるとよい。</li> <li>・先生方の負担感を減らし、達成感を得られるような取組を模索する。</li> </ul>









